

# Time management - Balancing research, teaching and volunteer work with life

Maciej J. Ogorzałek  
Jagiellonian University  
Krakow, Poland

## Abstract

Starting an academic career one should obviously think not only about duties but also find pleasure in teaching and research.

Often young people become so devoted and involved that the work becomes the center of their activities and everyday life.

It becomes difficult to separate work from life ... very fast pace and pressure from the environment makes things even more hectic and difficult.

There is a bad need to find the golden mean - balance research, teaching, and volunteer work in various aspects with normal life.

To keep a healthy mind we need to relax, take vacation, spend time with friends, devote time to family - enjoy life!

Keeping a good balance is essential - the purpose of this talk is to share my own personal experience in many aspects of academic well-being that I encountered in my 30+ years career.

# Personal story

MSc – 1979

Married – 1980

Children – 1982 and 1986

PhD – 1987

Full Professor – 1993

IEEE Member – 1986

IEEE Fellow – 1995

On the CASS ExCom since 2002

CASS President-elect 2007/President 2008



- An optimistic view –  
work hard/advance and enjoy life!  
**balance activities!!**
- A pessimistic view - work hard/advance  
care for career only ... life passes by

- „Life cycle” – your active years
- Different needs on the student’s stage, graduate student, beginning of working activity, advancing/promotions, reaching stability
- Individual approach – what are the needs?  
Balance various activities!!



## あの人のこんな趣味

基礎・境界サイエティで活躍している研究者の趣味を御紹介します。  
あの人のこんな趣味、御存じでしたか？

### Maciej Ogorzalek さん (ヤギェウォ大学・ポーランド) 貝殻コレクション

Ogorzalek さんは、IEEE Circuits and Systems Society の前会長であり、近年は、生体の制御機構や情報処理の理解とその応用を目的とし、非線形電気電子工学の新たな展開を精力的に推進されています。また、2010年9月には実行委員長として、本サイエティ主催の「非線形理論とその応用国際シンポジウム(INDLTA)」をクラコフ(ポーランド)で開催して下さいます。

大の日本びいきである Ogorzalek さんに、貝殻コレクションの轡趣についてお聞きしました。

### ■ Ogorzalek さんへのインタビュー



Large and small shells

Q. 貝殻を集めるようになったきっかけを教えてください。

1991年にシンガポールで開催された国際会議(ISCAS)に出席したとき、当時9歳だった息子にとっても変わった形の素敵な貝殻をお土産に持って帰ったんです。恐らくそれが私の貝殻コレクションのスタートだと思います。息子は、その骨格標本のような「ホネガイ」をととても気に入って、私に「もっと違う形の貝殻も」と言うようになり、それで貝殻を探するようになったわけです。でも、数年後には、私自身が貝殻に興味を持ち、魅了されることになりました。そして、生物学に関する文献や勉強などの少し科学的な側面も合わせて私自身の本格的な貝殻コレクションが始まったのです。

Q. 貝のどういうところにひかれるのですか？

それはいろんな側面があると思いますが、何と言っても、「特殊な形状や奇想天外な配色。これらが自然に作られて、生物として存在している！」ということでしょうか。それから、私の興味は、パターン形成についての勉強をしてから深まったと思います。あるとき、「The Algorithmic Beauty of Seashells」という素晴らしい本に出会いました。この本に従えば、数学的な方程式をちょっと変えるだけで、多くの貝殻パターンをシミュレーションで再現できるのです。なぜ生物は数学を知っているわけではないのに、こんなパターンを産み出せるのでしょうか？自然は、何となく彼らに異なる環境で懸れて生き



My first shell

延びる方法を教えたのでしょうか？「なぜ、どのように、このようなことが自然界で起こるのか？」というのは、本当に魅力的な問い掛けだと思います。

Q. 貝殻コレクションに関して忘れられない思い出がありますか？

私のコレクションの機つかを見せたときに、それを本物の貝だとは信じなかった人がいました。芸術家がそれをデザインして、高い技術を持った彫刻家はその形状を造り上げ、画家が彩色を行ったと思ったそうです。とても面白い経験でした。

Q. 貝殻コレクションが研究の役に立ったことはありますか？

私の専門研究分野はエレクトロニクスと信号処理です。パターン解析とパターン形成は信号処理に関連するテーマです。貝殻パターンの形成を信号処理のツールを使って研究できますし、逆にセルラニューラルネットワークなどを



Part of cone collection

使ってそのパターンを生成することもできます。また、貝殻を生物とともに成長する「家」としてとらえると、貝の外殻は生物の一生の活動を時空間的に記録したものとみなすこともできます！科学的な視点から、例えば時間的に周期的なパターンや空間的に周期的なパターンを見いだすことができるかもしれません。貝殻は素晴らしい時空レコーダなんです！私は、非線形システムの振蕩いと時空パターンについて、学生と話すときには貝殻を持っていったりするんですよ。

Q. 日本の読者にメッセージをお願いします。

海に囲まれた日本は本当に素晴らしい貝殻を産み出す軟体動物の宝庫です。それら日本産の貝殻は、例えば建築家などにとって(写真の「Thatcheria mirabilis (千巻法螺: チマキボラ)」を見て下さい)、アイデアの源になっています。私は、日本の海で見つけることができる、とても小さくとも精巧な貝に、私が見つけて止まない日本の美の原点を発見しています。

Thatcheria mirabilis



Japanese dish